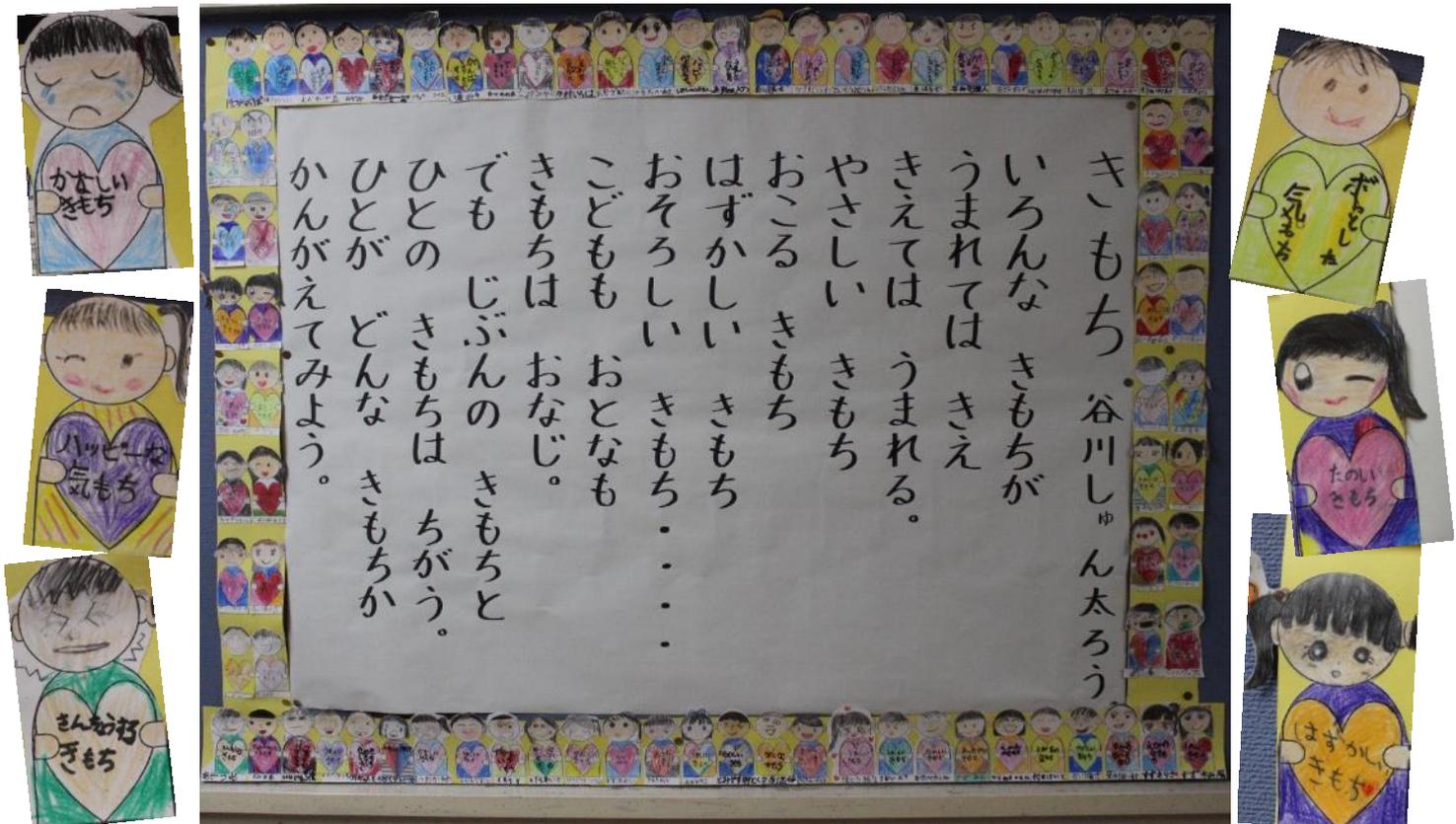


ほっと ハート

わたしのきもち、あなたのきもち。どちらも大切にできたらいいね。



南校舎1階の会議室前にある「今月の詩」掲示板、10月は2年生の詩です。2年生は谷川俊太郎さんの『きもち』という詩で掲示物作りをしてくれました。

谷川俊太郎さんの詩の中には、「いろんなきもち」の一つとして「やさしいきもち・おこるきもち・はずかしいきもち・おそろしいきもち」が紹介されています。それを受けて、2年生の子供たちも身の回りにある沢山の「きもち」に注目して「きもちカード」を作成しました。「たのしいきもち」、「ハッピーなきもち」、「かなしいきもち」、「きんちょうするきもち」…沢山のカードに囲まれて、華やかな掲示物が完成しました。子供たちの言葉から、色々な気持ちのなかで私たちは過ごしているということに改めて気づかされました。

一人一人、感じている気持ちは違います。谷川さんの言葉のように、「ひとがどんなきもちなのかかんがえてみる」ことが大切です。子供たちも、私たち大人も、自分が感じる気持ちを大切にしながら、相手を感じている気持ちも同じように大切にしていけたら、とても素敵だと思いますか。



美しいものを感じる幸せ

●年●組担任 ○○○○

「わあ、きれい。」と思うことが多くなりました。私の実家は長野県伊那市。高校を卒業するまで住んでいました。『信州＝田舎』というイメージで、何も無い退屈な所という印象でした。ところが最近では、中央アルプスと南アルプスに囲まれた伊那谷の故郷の風景が、四季折々大変美しく感じるので。特に、標高3033mの「仙丈ヶ岳」は、私のお気に入りの風景です。真っ青な空と真っ白な雲を背景に太陽に輝く稜線の美しさ、雪をかぶっている山肌の雄大さ。心が洗われるようです。夜の静けさ。輝く数々の星。吸い込まれそうです。

更に、最近では田舎に帰らなくても、たくさんの「美しいもの」に出会います。道端に咲いている名も知らない小さな花。黄色、ピンク、白、うす紫、水色…。きれいな色が、幸せを運んでくれます。緑も美しいです。新緑の若葉の色から、深い緑色。緑の色だけでも、何種類あるのでしょうか。また、海に行けば、寄せては返す波、はるか彼方に見える水平線。ぼーっと見つめていると、自分の悩みなどちっぽけなものだと思えてきます。こんな風に思うのは、年を重ねてきたからでしょうか。

幼いころにも、「わあ、きれい。」と思うことは度々ありました。父がくれたカラフルな色のドロップだったり、母が編んでくれたセーターだったり…。美しいものに囲まれていることは、とても幸せなことだと感じています。そして、人によって美しいと感じるものが違うことも、素敵なことだと思います。

寄り添い、支え合える社会に

●年●組担任 ○○○○

「暴力とは、じつは涙が形を変えてしまったものなのだろうか…。」 O・ブルニフィエ

この言葉に出遭った時、ハッとすると共に、スーッと自分の中に入って来る感覚を覚えました。力任せに自分を主張する大人や子供がいます。そんな場面に出遭った時には、とにかくその人自身を含め、怪我をする人が出ないようにすることで精一杯です。しかし、心と落ち着き、その人の内面に近づこうと考えてみると、何かとても悲しい感情に襲われることがあります。

私には子供がいます。生まれてから暫くの間は、夜も満足に眠れず、どうして泣いているのか分からず、頼れる人が近くにおらず、涙がこぼれることが少なくありませんでした。新聞で報道される幼児・児童虐待のニュースを見るたびに、心が締め付けられるような思いであると同時に、紙一重なのかもその時に感じました。それは自分でも衝撃的な感覚でした。

暴力を肯定しようとは全く思いません。しかし、暴力に至ってしまうというのは、そこまで追い込まれていて、やり場のない感情が形となって表れてしまうのかもしれない。誰にも起こりうることなのかもしれません。早い段階で周りが気づき、その人に寄り添える社会になったらいい、自分もそうありたい、と思っています。